

彗星ってどんな星？

2024年の秋に見られた、ツチンシャン・アトラス彗星はまだ記憶にも新しく、久しぶりに立派な尾が見える彗星でした。彗星は尾を持つことが特徴の天体で、他の天体とは大きく見た目が違っています。しかも、いつも見られるものではなく、ある時突然に現れて、数日から数週間程度でまた見えなくなってしまいます。

しかも、この彗星の尾は、彗星の進行方向にそって伸びるのではなく、太陽と反対方向に伸びることが知られています。この彗星という天体は一体どんな天体で、なぜこのような変わった特徴を持つのでしょうか？

彗星は、太陽系の外縁部の太陽の熱があまり届かないエリアにあった氷天体が太陽に近づく軌道に変化したものです。太陽に近づくとその熱で氷が溶け、ガスやチリを放出します。その放出されたガスやチリが、太陽と反対方向へ吹き飛ばされて、尾として観察されるのです。さらには、ロゼッタをはじめとする彗星探査機による近接探査で彗星の「本体」とも言える氷天体の素顔も分かるようになってきました。

企画・制作：飯山 青海(学芸員)




KONICA MINOLTA

私たちは「宇宙」を
作っている会社です。

— プラネタリウム生誕100周年 —

最新の光学・デジタル プラネタリウム機器の開発・製造から、独自の番組企画・制作・運営ノウハウに至るまで、プラネタリウムという“スペース”の可能性を追求し続けてまいります。

コニカミノルタ プラネタリウム株式会社

本社・東京事務所 〒170-8630 東京都豊島区東池袋3-1-3 TEL (03) 5985-1711
大阪事務所 〒550-0005 大阪府大阪市西区西本町2-3-10 TEL (06) 6110-0570
東海事務所 〒442-8558 愛知県豊川市金屋西町1-8 TEL (0533) 89-3570
URL: <http://www.konicaminolta.jp/planetarium/>

画像：大阪市立科学館

ORIGIN 太陽系のはじまりを求めて

私たちの太陽系は、どのようにして生まれたのでしょうか。近年の観測で、宇宙には太陽系と同じような惑星系がいたるところに存在することが分かってきました。そこで研究者たちは、これら惑星系の誕生するようすをくわしく観測できれば、太陽系がどのように生まれて来たのかを知ることにつながると考えました。

しかし、星や惑星の誕生のようすを詳しく観測することは、それほど簡単なことではありませんでした。星はガスや塵からなる星雲の中で生まれてきますが、星雲はとても温度が低く、私たちの目に見える光、可視光を出していません。つまり、普通の望遠鏡では見えないのです。でもその代わり、電波を出していることが分かりました。この電波をとらえることができれば、新しい星と惑星が生まれつつある場所で何が起きているのかを知ることができます。

“星や惑星が生まれてくる様子をもっとよく見たい、もっとくわしく知りたい”。そんな研究者たちの思いから建設された世界最高性能の電波望遠鏡が、「アルマ」です。この番組の主人公は、太陽系のはじまりを研究している研究者。声優・杉田智和さんのナレーションでお届けします。さあ、アルマとともに太陽系のはじまりを探る旅に出かけてみましょう。



©「ORIGIN」製作委員会

企画・制作：西野 藍子(学芸員)

星の輝きで伝えることがある
五藤光学研究所 ■ 全天候デジタル配給作品

 A promotional image for the Mars Orbiter Mission (MMX). It shows a satellite with solar panels and a camera, orbiting the reddish, cratered surface of Mars. The text 'MMX' is prominently displayed in large white letters, with '火星衛星探査計画' (Mars Orbiter Mission) written below it. At the bottom, there is a list of credits and logos.

監督・脚本：土坂 浩光 ナレーター：中川 慶一 音楽：酒井 義久 監修：白井 寛裕／橘 省吾
協力：JAXA 火星衛星探査機プロジェクトチーム 制作・著作：MMX製作委員会
© LIVE / 五藤光学研究所 / 科学技術広報財団 / 神戸市立青少年科学館 / ALLSTAFF CO.,LTD.

GOTO